

市島地域市立小学校 統合準備委員会だより

令和3年10月20日 Vol. 2

発行：市島地域市立小学校統合準備委員会
(事務局：丹波市教育委員会 教育総務課)
TEL 70-0810 / FAX 70-0814

第2回丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会が
10月5日（火）にライフピアいちじまで開催されました。

◆地域ヒアリングの開催

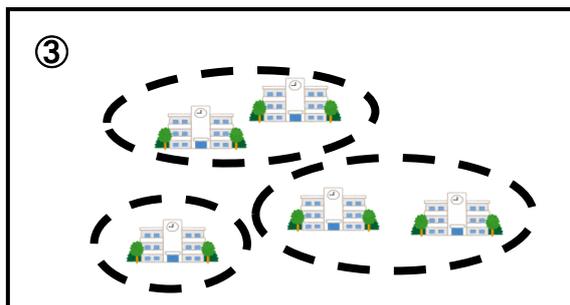
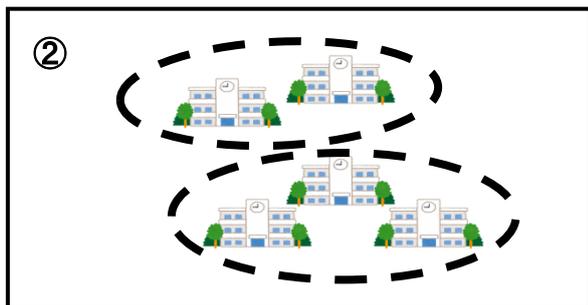
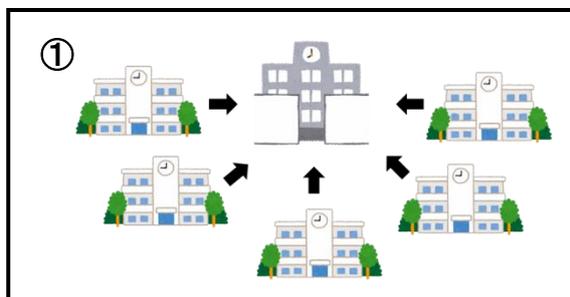
第1回統合準備委員会の開催後、各小学校区の委員を対象に地域ヒアリングを開催し、「統合の時期」「統合の形態」を中心に聞き取りを行いました。統合の時期は「できるだけ早く統合をするべき」という意見がどの校区でも寄せられ、統合の形態についても希望する統合のパターンなど具体的な事項について意見をいただきました。

◆想定される統合のパターン

地域ヒアリングで寄せられた意見を基に以下の3つのパターンが統合の形態案として第2回統合準備委員会で提案され、各委員によって意見が交わされました。

提案があった統合のパターン

- ① 5校→1校にする統合
- ② 5校→2校にする統合
- ③ 5校→3校にする統合



※各統合パターンの詳細については裏面をご確認ください。

資料や会議録等の詳しい内容は教育委員会のHPをご覧ください。

(<https://www.city.tamba.lg.jp/site/kyouiku/>)

次回の委員会日程

日程：11月4日（木）19時30分から
場所：ライフピアいちじま



QRコードはこちら！



想定される統合のパターン

① 「5校→1校」にする統合

対象	市島地域5小学校
児童数	388人（各学年2学級）※R3.3末時点
想定される統合場所	未定（協議による）
統合時期	統合に関する具体的な事項が決定してから4～5年後
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育校や義務教育学校にすることで中1ギャップを解消し、9年間を見通した連続性のある教育が可能となり、生活と学習面の両面から系統的、継続的な指導が期待できる。 ・各学年2学級以上の規模となり、国の適正規模の基準を満たすことができる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な施設整備が必要になる。 ・統合場所の決定や校歌・校章の決定など多くの調整事項が生じ、統合協議に時間を要する。 ・遠距離通学支援（スクールバス等）の調整が必要である。 <p>⇒<u>早期統合の希望に応えられない。</u></p>

② 「5校→2校」にする統合

対象	<ul style="list-style-type: none"> ①竹田小・前山小 ②吉見小・鴨庄小・三輪小
児童数	<ul style="list-style-type: none"> ①160人（各学年1学級）※R3.3末時点 ②228人（各学年1～2学級）※R3.3末時点
想定される統合場所	<ul style="list-style-type: none"> ①竹田小学校 ②吉見小学校
統合時期	<ul style="list-style-type: none"> ①最短で令和5年又は令和6年 ②施設整備を最小限とする場合は令和8年度以降、それより早く統合を希望する場合は改築や増築が必要となる。
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> ・5校→1校にする場合に比べて大規模な施設整備は不要で早期に統合を実現できる。 ・認定こども園単位で統合することで、幼小連携教育を実施しやすい。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・②で早期の統合を望む場合、現況の校舎では普通教室が不足するため、校舎の改修又は増築が必要となる。 ・校名の変更（校歌・校章を含む）を伴うと早期統合は難しくなる。 ・遠距離通学支援（スクールバス等）の調整が必要である。

③ 「5校→3校」にする統合

対象	<ul style="list-style-type: none"> ①竹田小・前山小 ②吉見小・鴨庄小
児童数	<ul style="list-style-type: none"> ①160人（各学年1学級）※R3.3末時点 ②147人（各学年1学級）※R3.3末時点
想定される統合場所	<ul style="list-style-type: none"> ①竹田小学校 ②吉見小学校
統合時期	<ul style="list-style-type: none"> ①最短で令和5年又は令和6年 ②最短で令和5年又は令和6年
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> ・現況校舎で必要な教室数を確保でき、施設整備が不要である。 ・想定されるパターンの中で最も早く統合を実現できる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・遠距離通学支援（スクールバス等）の調整が必要である。 ・校名の変更（校歌・校章を含む）を伴うと早期統合は難しくなる。